

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970700645
法人名	(有)みんなの家どんぐり
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	〒 400-0504 山梨県南巨摩郡増穂町小林1954-7 電話番号 0556-22-4709

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年12月 1日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】平成20年11月11日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8人	常勤	8人 非常勤 0人 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	2 階建ての 0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要 平成20年11月11日 現在

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くぼた内科胃腸科医院、小野皮膚科、くつま整形外科医院、さの歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月3日(水)

甲府盆地の南にある施設は、南アルプス連峰を控え、果樹園に囲まれた静かな環境にある。傍の利根川公園では、春に花と緑の増穂まつりが行われる。利用者は、天候や体調の状態を見て車椅子で参加し、大勢の人達とふれあう。平成11年にデイサービスを開設し、その利用者の家族の中からグループホームの必要性を相談されて開設した。現在、利用者(平均年齢90歳)の介護度は高く、歩行困難で聴覚や言葉も不自由を感じる様子が伺える。「かゆいとこまで手がとどいてねえ・・・」と、第2の我家と決め、安心して身内のような職員に寄り添う姿をみた。ソファでイビキをかいて昼寝をしたり、笑ったり明るい居間は家族の絆に結ばれ、ほんのりとした雰囲気でも過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ★解りやすい独自の理念に変更した。「第2の我家 その人らしく のんびり 生き生きと」★職員を育てる取組は、内外の研修に取り組んでいく。★同業者との交流は、グループホーム協会の研修を受講し、同業者との交流を計画している。★介護計画書の家族のサインを頂き、更にチェック確認をしている。★栄養摂取、水分確認は摂取量を栄養士と相談し、健康管理に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングで話し合い、職員全員の意見をとりいれながら自己評価作成をした。独自の理念も基本の長い文章を改め、一言で言えるように簡略化した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2か月に1度、開催している。利用者の家族全員、包括支援センター、区長、市町村担当者、と職員で行う。内容は、お祭りなどの行事について話し合う。家族もこころ良く参加して協力してくれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会が多く、毎日のように顔をみせる方もいる。面会に来た時に利用者の現状を、お話したり、家族の希望、要望に答えている。苦情処理箱もあり、言いにくい事を書いて出せるようになってきている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事には、すすんで参加するようにしている。高齢で硬直しつつある身体の利用者が多く、移動が困難であっても外出をし、気分転換を図っている。青空が気持ちいい……。紅葉がきれいだったよ……。と喜んで楽しんだ感動の思いが伝わってきた。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームどんぐり

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念「第2の我家を目指し、その人らしくのんびり生き生きと」を掲げて実践している。利用者は地域の行事に参加して、一住民として地域の中で暮らし続けられるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで管理者、職員が「第2の我家だよ」と話す利用者の言葉を重く受け止め理念にした。暖かく支えあい助け合う本当の家族。我が家の実践につなげられるよう、ミーティングでも意識づけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	春の花と緑の植木まつりは、すぐ近くで行われるので、車椅子で出掛けられる利用者は行く。施設の前の広場で、行事が開催される為、様々な行事に参加し易い。人の動きや声を聞き、地域にいる実感を少しでも味わってもらえるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施することで、気づかなかった点が見えたりする。改善計画シートで目標をたて、改善に向けた内容を職員で考えている。実施期間を決め検討、評価に取り組んで資質向上につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族全員と包括支援センター、市の保健課、区長、職員全員で2か月に1度行う。会議の内容は、経過報告をして利用者の健康状況、行事、夜間の災害訓練など話し合っている。出席率はよく、みなさんが協力的で、特に家族は心配してくれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者は、居宅介護支援事業所が併設されているので、よく顔を出す。グループホームの相談や用事を頼んだりはしない。	○	毎月、発行する「どんぐり 風のたより」を行政の窓口担当の方に届けるようにして、一歩ずつ近づくようにしていき、地域のグループホームの状況などの知識を、少しでも得るように軽く足を運び、より良い関係が図られるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、お便りを家族にお届けしている。担当者が自筆で、近況報告を細かく手紙に書いて出す。お小遣い帳も領収書のコピーを入れ送っている。離れて暮らす家族の心配は図りきれないので、小さな出来事でも、解りやすくお伝えするようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族の面会が頻繁にある。家族と職員の関係は、強く何でも言える状態で気楽に話せる。不満や不安、苦情は大きくならないうちに、顔を合わせた時点で話せる配慮がある。苦情処理箱の利用はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、異動はなく、利用者は、馴染みの声、見慣れた顔で、介助や支援をうけながら安心した様子で、生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパーバイザーに社長と管理者がなり、職員の研修を行う。医療面は看護師が行っている。ノロウイルスの対策、薬のリスク、感染症、病気の対策、対処などの研修を行った。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国と県のグループホーム協会に加入して、勉強している。共に研修を受講したりするが、交流してはいない。	○	職員から他の施設を勉強したいとの声がある。近くのグループホームの管理者とも相談して、相互訪問や研修、交流ができるよう計画を進め、巾の広い職員となるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスから入居してきた利用者が多く、馴染みながらの普通の生活をしている。利用者の家族も職員との関係は、信頼感の上であり、相互の思いやりに包まれ、利用者は、ほんのりと生活している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴をいかして、茶碗拭きと洗濯物たみをしていただいている。職員は利用者から昔話を聞いたり、道理や経験を聞くたび勉強になり関心する。人生の先輩として、常に敬っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	90歳を超えた高齢で、医者から体力の減退と言われても気力で動いている利用者にも、「大丈夫ですよ 安心して下さい」と声をかけるなど、心穏やかに過ごせる事を念頭に、一人ひとりの思いを受けとめることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が介護計画を作成してミーティングで話し合い計画をたてている。家族には、面会時等、日ごろのかかわりの中で、希望や要望を聞いて、反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化に応じて、家族に連絡をしている。介護計画を見直し、次の方向に向けて、職員で話し合っている。そのうえで、看護師が計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅に帰る「ふるさと訪問」は、職員が送迎している。近所の方も懐かしく思うのか、顔を見に集まり、待っていたりする。重度化で家族の対応が困難でも、職員の介助で帰宅している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で、往診に来てくれる3人の医師がいる。家族の希望にそって、病院の受診を優先している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、ホスピスケア希望確認書に同意書を頂く。利用者の体調変化の応じて、本人と家族、職員、看護師と話し合い確認書を頂く。特に終末期の看取り状況に入る時期は、家族全員で考えて頂き、後悔のないよう方針をたてるようアドバイスしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重度化して、体の自由が利かない場合でも、トイレ誘導をしている。歯磨きもできる範囲で、自分で磨き、口をゆすいでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋で不安を感じる利用者は、居間で自由に過ごせる配慮をするなど、利用者の希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、生きていく上で一番大切なこと。彩りよく、味も良く、楽しみながら食べられるように配慮している。嚥下の心配のある利用者はトロミをつけたりする。後かたづけは、食器を拭いてもらったりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回入浴できる。入浴をしたいという本人の希望はない。体調の状況をみて、職員は入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コロ柿を作ったり、野菜を取って来てみたり、声をかけ職員と利用者のコミュニケーションの中で、季節の確認をしている。毎日、お酒をたしなむ利用者もいて、おつまみを用意したりという心づかいも伺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車でドライブしたり、紅葉やカカシ祭りに出掛けている。利用者にとって、外出は楽しく嬉しい。景色などの思い出を、何回も繰り返し語っていた。また、隣のデイサービスに遊びに行ったり、買い物に行ける利用者者の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼中は施錠していない。玄関の開閉は、小さな音で解るように工夫している。安全の為に、夜間は鍵を掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの依頼で、消防団も加わり、救助訓練を実施した。応急手当なども行い、地域の方に施設を知って頂く良い機会にもなった。夜間の火災訓練を含め、デイサービスと合同で、近所や家族の参加協力を得ての訓練もした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近くの病院の栄養士に来て頂き、個々の状況にあわせた細やかな栄養指導を受けた。普段は担当の栄養士がカロリー計算をして、バイタルチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間にコタツがあり、ぽかぽか陽気であたたか寝をする入居者もいた。窓からは、自然の景色が見え、利用者は、第2の我家の生活をゆったりとのんびり過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた使い慣れたタンスが置いてあり、家族の写真が貼られた居心地よさそうな部屋。自分の部屋から、自分の果樹園を眺め、息子達、家族の働く様子をみている話す入居者もいる。住み慣れた我が家にいるような配慮がされていた。		